

令和7年度入学試験問題（帰国生徒特別選抜）

小論文

医学部 保健学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、100分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文章は、今井むつみ氏の『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策』の一部です。

あなたは、ある病院でボランティアに参加すると仮定します。言葉のやりとりができる患者さんや病院スタッフとコミュニケーションをとるときに、どのような課題があると考えられますか。

コミュニケーションの課題があると考えられる場面の例をあげ、どのような工夫をする
と円滑なコミュニケーションが行えるのかについて、下記の文章を読み、あなた自身の考
えを 300 字以上 400 字以内で述べなさい。

非公開

非公開

非公開

(今井むつみ (2024). 『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策』 日経 BP, 16～37 ページ, 抜粋・一部改変)

令和7年度入学試験問題（帰国生徒特別選抜）

小論文

医学部 保健学科

出題の意図

保健学分野において、学生は様々な年代、背景を持った患者さんをはじめ、医師や理学療法士、介護福祉士などの多職種と円滑にコミュニケーションがとれる力を有することが求められる。そのため、病院ボランティアに参加する場面を設定し、患者さんや病院スタッフと効果的なコミュニケーションをとるために、学生が工夫できることについて問う内容とした。

この問題の解答にあたり、対象者の知識や経験に基づいたスキーマを理解した上で、コミュニケーションをとることが要点となる。また、相手のスキーマを理解するには、保健学学士教育プログラムアドミッション・ポリシーである「生命を尊重し、相手の身になって行動できる」資質が必要であり、コミュニケーションの工夫を問うことで「自らの目標に向かって自己啓発し、多様な人々と協働できる」資質について確認ができる。そのため、コミュニケーションの本質について述べている本問題を採用した。